

ホフマン通信

—「国重要文化財☆日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」保存修理情報— 第5号

◎覆屋の解体

建物全体を覆う素屋根の設置が完了し、これまで窯を風雨から守ってきた覆屋を解体します。まずは外壁と屋根の鉄板を撤去し、小屋組を露わにしました。その後、一つ一つの木材の位置を記録し、詳細に調査しながら解体して、全ての部材を保管しています。

小屋組の解体が完了したことで、かつての2階床面が見渡せるようになりました。窯上部の床面は舗装されておらず、土間になっています。集煙道出入口、投炭口、燃料の粉炭や乾燥した焼成前の煉瓦を運ぶためのトロッコ軌道が、良好に保存されていました。



屋根鉄板の撤去作業



屋根鉄板の撤去後



小屋組解体完了後



小屋組解体完了後（煙突付近から）

※多数の小さい穴は投炭口、

写真中央の穴は集煙道出入口

◎窯内部の補修

窯内部では、煉瓦の脱落や目地の欠失、亀裂などがみられるため、補修工事に着手しました。目地の表面に含浸強化剤を吹き付け、目地の欠失している箇所には新たな目地材を詰め、煉瓦の脱落部には煉瓦を詰めるなどを行っています。目地材には、素材や色合いが本来の目地に近く、耐久性が高い素材を詰めました。



含浸強化剤の吹き付け作業



煉瓦窯稼働当時の補修痕

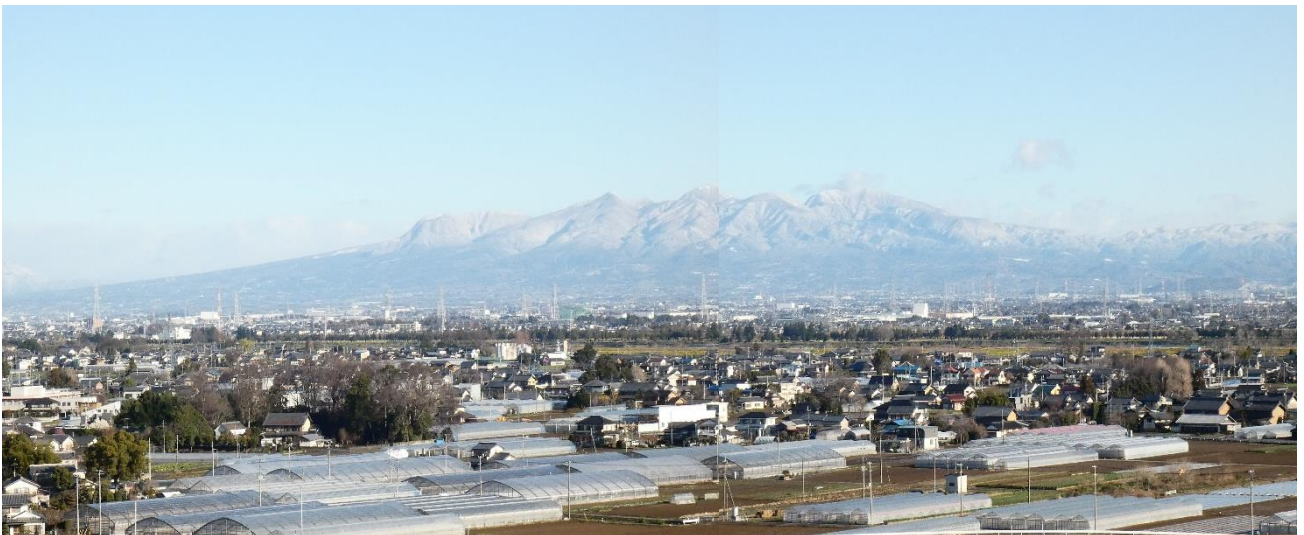
また、煉瓦窯が稼働していた当時（昭和43年以前）、空隙箇所に粘土を詰めて補修した痕も確認され、金槌で叩きしめた痕が残っていました。

◎煙突足場の設置

コンクリート造の煙突は、表面が炭素繊維による補強がされていますが、今回の工事では、煙突内部の鉄筋の状態などを調査し、安全性を確認する必要があります。そのため、高さ約40mの煙突に、作業用足場を設置しました。



煙突に設置された足場



煙突足場最上部から赤城山を望む